

279 号

11 月例会のお知らせ

日 時 : 11 月 23 日 (木) 13:30~16:30  
 場 所 : 府中町屋倶楽部  
 内 容 : 『絵暦—越前の里の草花篇』 ケース入れ作業

一年経つのは早いもので、今年もまた皆さんのお力をお借りする時期になりました。毎年勤労感謝の日に作業していただくこととなりますので、大変申し訳ないと思っております。でもこうした皆様の無料奉仕のおかげで、毎年『絵暦』を発行し続けることができています。しばらくの時間でも結構ですので手伝ってください。お帰りの際には新しい『絵暦』をお持ち帰りください。

■季節の移ろいを表すのに、一年を 4 等分した春夏秋冬のほか、24 等分した二十四節気、72 等分した七十二候（しちじゅうにこう）があります。11 月 7 日は二十四節気の「立冬」、七十二候では「山茶花初めて開く」と、なっています。ところが、あちこちの庭を見ますとサザンカが初めて開くどころかすでに満開に近く、今月一杯で花が終わってしまいそうです。また江戸時代には炬燵を出すのは、旧暦十月の初亥の日と決まっていたそうです。それは今年ですと 11 月 20 日になりますが、どこのお宅でもとくに炬燵やストーブを使っていることでしょう。（亥は五行説では「水の気」になっておりますので、火事の多かった江戸では縁起を担いで初亥の日にしたようです。）江戸時代より寒くなっているのか、それとも私たち人間が寒いのも暑いのも我慢ができなくなっているのかどちらでしょうか。

■今年は昨年を引き続き、40 年以上毎日村国山を散策して、虫とともに草花を観察して来られた津郷勇氏に、写真家の河合俊成さんが協力する形で「越前の里の草花篇」を完成させました。津郷氏の優しいまなごしの感じられる俳句も付けました。「睦月 フキノトウ ほろ苦きこと色々や露のとう」「葉月 ベニバナボロギク 旅立

らの追い風嬉し里の秋」

■「発刊に寄せて」福井高専名誉教授 津郷 勇  
 「越前市の真中にある標高 239m 南北 1.7km、東西 1.3km の村国山は、福武低地に散在する孤立丘の中でも最も環境的に優れ、山麓の西方を流れる日野川と共に四季の散策に最高の里山である。日々の散策で、色々な花や虫に親しめる事から好まれ、また頂上付近からの夜景を景観する場としても最高だと、訪れる人が多い。

2006 年の『絵暦—村国山篇』に紹介されているので、各位には既に概観をご承知の事と思われるが・・・ 村国山には花や虫の種類が豊富なため、趣味のカメラを何台も更新したと言う人も多い。最近、周辺が随分と開発され、店舗や人家が増え、山の環境も年と共に変化し道路舗装が進んだためか、気が付けば、初めて見て非常に感動したハンミョウを見かけなくなりました。また花にもみつけられなくなった種類があるのが残念である。『絵暦』を季節々々の野の花に合わせて作るのは結構難しい。四季花暦』や『歳時記』を参考に、村国山の散策で撮影しデータに残していた写真等を使い、『絵暦—里の草花篇』を纏めることができた。 」

■来月の「年末笑年会」は、12 月 23 日 (土・祝) 18 時半からです。(夕食付)